

長岡地区租税教育推進協議会優秀賞

納得して税金を納めるために

長岡市立大島中学校

三年 木倉 享之介

税金は課税主体が国である「国税」と、地方公共である「地方税」があります。その国税には僕たちの一番身近にある「消費税」があります。消費税は中学生である僕たちもお店などで商品を買うときなどによくはらっています。

日本の消費税は現在八パーセントですが、政府は今後、消費税を十パーセントに上げようとしています。

では、なぜ消費税を上げなければいけないのでしょうか。それは簡単に言うと、日本の財政が毎年赤字になってしまっているからです。日本の財政はバブル崩壊以降、国の歳出と歳入の差が開いていき、その差はかなり大きなものとなりました。

歳出の中で大きな割合を占めるのが社会保障費と国債費です。社会保障費の予算は約三十兆円で、さらに今後も毎年八千億円から一兆円のペースで増え続けることが予想されています。国債の予算は約二十五億円で万が一、国債の金利が一パーセント上がれば、五兆円程度の利払い費用が増えると思われています。

一方で、税収は五十八兆円程度であり、税収で賄いきれ

ない部分を他の収入で賄っている状況なのです。そのため、税収のアップが必要であることで消費税を上げようとしているのです。

日本では消費税は八パーセントですが他の国ではどうなのでしょう。日本のとりの国である韓国では十パーセント。世界で一番消費税が高い国はハンガリーでその率は二十七パーセントもあります。こう考えると日本の消費税はあまり高くないと思います。なので日本の国民は消費税を上げるのに反対ばかりをするのではなく、日本の財政のことなどもよく考えてみるのもいいのではないかと思います。

おそらく、多くの人は税金を納めたくないと思っっていると思います。サッカー選手のメッシや Neymar も脱税をしたことがあります。なんで税金を納めたくないかという点、基本的には稼いだお金をとられたくないということだと思います。でも、よく考えると社会保障や公共サービスなど自分たちの暮らしを守るために税金は使われています。このことを実感できれば税金を納めることに抵抗を感じることはなくなると思います。

そのためには、国はどのようにに税収を上げるのかを考えるだけでなく、それと同じに税金の使われ方を多くの人に理解され、支持されるように情報を説明するというのもいいのかなと思います。

そうすれば、自分のお金が取られてしまうという感覚ではなく、納得して税金を納める人が増えてくれると思います。